



創作便い

2017年11月2日 発行 第110号

今月は、「創作活動への参加をきっかけに生活に変化が見られるようになった患者様」のご紹介です。

<Mさんの事例：日々の時間の管理を意識的にするようになりました>

Mさんは、食事や入浴、リハビリなど病棟での活動には、声掛けに応じ問題なく参加されていました。しかしそれ以外の時間は、部屋まで声を掛けにいかないはずと部屋で寝ているような生活を送られていました。

創作活動では、初めのうちは作品の一部分の作成を担ったり、Mさんを含む少人数のグループでひとつの作品を仕上げたりしていました。活動参加される中で、一度その作品に関心が向くと 細部にまでこだわろうとする姿勢が見てとれました。

そこで、グループでの取り組みではなく個人作品に取り組んでみませんかと提案してみたところ、「私なんかにできるのか」と不安げなご様子でしたが、作業をすすめるうちに、「失敗なく進めていく・良い作品に仕上げる」ために、ご本人なりに工夫されるようになりました。

例えば…

- * 作品の一部分を仕上げたら必ずスタッフに確認を求め、そして次の工程を確認する。
- * 自分が使用する物(画用紙、糊など)はひとつの袋にまとめておき、次にその袋を開ければ今日はどこから始めれば良いか思い出せるようにしておく。
- * その日の自分の体調や、今週の活動予定を考慮したうえで、今日はどこまで進めるかをご自分で決定される。

といったことです。

これらの工夫は、スタッフと相談のうえで決めたものもあります。が、個人作品を作る過程でのMさんの一番の変化は、「ご自分で時間の管理を意識的にされるようになったこと」にありました。今日の活動は何か、それは何時からか、何時には座席について待っていよう、それまでに済ませておくべき事は…等々です。

時間の単位も一日単位ではなく、今週の創作活動は何曜日にあるか、午前か午後か、週に何回あるか、一階ロビーでの作品展に間に合わせるには今日はどこまで進めたら良いか…というように、ある程度の期間を見通して計画を立てていらっしゃるようで見えました。

今後も 創作活動を通じて、Mさんが自分らしく いきいきとした毎日を送れるよう願っています♪

